

## 第4回国立市基本構想検討委員会 議事要旨

1. 日 時 平成27年 8月10日(月) 19:00~20:50
2. 場 所 くにたち市民総合体育館 第1・第2会議室
3. 出席者 永見副市長  
(委員)  
細野委員長、中原副委員長、小山田委員、観音委員、佐藤委員、  
十松委員、間淵委員、渡部委員、近藤委員、佐伯委員、中島委員、  
土屋委員、増田委員、吉岡委員 (欠席) 牧瀬委員  
(事務局)  
雨宮政策経営部長、黒澤政策経営課長、脇領政策経営係長、  
赤尾政策経営係主任、青木政策経営係主任  
(株)富士通総研 若生
4. 傍聴者 5名
5. 議 事
  1. 計画期間について
  2. 土地利用について
  3. その他
6. 配布資料
  - ・ 次第
  - ・ 第3回国立市基本構想検討委員会 議事要旨
  - ・ 計画期間の検討の視点(資料 No.4-1)
  - ・ 土地利用の検討の視点(資料 No.4-2)
  - ・ 経過と今後のスケジュール(資料 No.4-3)
  - ・ 国立市の地域別人口の推移と市全域の地目別土地割合の推移  
(参考資料9)
  - ・ 国立市基本構想「土地利用の方向性」関連事業等概要図  
(参考資料10)
7. 内 容
  - (1) 計画期間について
    - 自治会活動でも連携の相手方が頻繁に変わると困る。事務局から提示された考

え方は、優れた考え方だと思う。(副委員長)

- 10年ごとに基本構想を変えることが市民に広く認識されていれば変えることに障壁があるが、それほど知られていないので障壁はないと思う。基本構想は、首長が変わることで変えなければならない部分と変えてはならない部分があるのではないかと思う。この観点から、すべてを首長の任期にあわせていくことに懸念はある。この機会に、基本構想の位置付けと、議会や職員における認識をしっかりとっていく前提で、変えていくことに賛成する。(委員)
- 市長任期中で整理しているが、仮に市長がリコールになった場合などには計画期間とずれると思う。選挙があるからという意味だけで期間12年という整理は難しいと思う。別の理由で4年ごとに行政が動いているのであれば話は別である。加えて、議会の関与についても検討する必要がある。(委員)
- 行政は連続性を持っているが、首長の考えとなじませるためにも、1年で調整期間を置くことが重要ではないかと思う。このサイクルで考えることに異論はないようなので、委員の意見を踏まえつつ、基本的には事務局案どおりで進めたい。(委員長)

## (2) 土地利用について

### (北地域)

- 北地域に住んでいる。北のチベットと言いながら国立市の中では疎外感を持って生きてきた。堤康次郎さんが開発を手がけた美しく整備された地域ではなく、消防車が入れないような道路があることや治安が悪かったこともあった。最近では中央線高架化により線路の側道や緑道なども整備されてきた。北地域は小学校の区域も一緒であり、自治会などの連携もスムーズである。北地域は空き地もなく、北地域の北側には国分寺市西町がある。震災があれば、国立第四小学校に受け入れてほしいという国分寺市西町住民からの依頼がある。祭りなども相互交流がある。中央線を利用する他の市民と連携する必要がある。(副委員長)
- 中央線で南北が分断されているがゆえのまとまりの良さが北地域にはある。自治会・子供会が活発である。東・中・西地域との一体的なまちづくりにおいては、北地域の良さを認めて活かせるような展開ができると良いと思っている。市境であるため、他市との連携を進める必要があると思っている。記載されている今後の方向性は大切な要素だと思う。副委員長は、立東地区に対する考えはあるか。(委員)
- 立東地区は仮に災害になると大変だと思う。自治会は多くあるが、連携がうまく成立しているかは分からない。北地域全体としては、自分たちの仲良しクラブでまちづくりを進めても今後は行き詰まるだけだと懸念している。(副委員長)

- 安全で暮らしやすい住環境の整備のためには、消防のための道路環境を整備する必要がある。立東地区商店の活性化は地区住民にも求められていると思う。各地域が各地域の良い取組を取込むべきである。(委員)
- 歴史的には、鉄道が都市を分断してきた。中央線高架化により生まれた高架下空間の利用が重要である。通り抜け可能な通路が高密度で高架下にあると、商業も活性化し、南北融合が可能となる。現在の自転車置き場をうまく活用することが考えられる。(委員)

(東・中・西地域)

- 中地域に住んでいるが、最も北地域に近い地区に住んでいる。市役所が遠いため、駅前で同様の公共サービスが受けられないことは残念である。高架下の通りや側道も信号がないため、整備が必要ではないか。店舗利用のため富士見通りの駐停車が多い。駐停車可能な場所とそうでない場所を整理するなど、交通の整備が必要である。(委員)
- 西地域に住んでいる。さくら通りも自転車道が整備され便利になっている。自転車を中心としたまちづくりを進めてほしい。中地域は一橋大学などで成熟された地域となっているので、今あるものをうまく生かす必要がある。(委員)
- 東地域に住んでいる。相続等の影響で1つの敷地が小さくなり、普通の地域になってしまうのではないかと懸念している。「文教都市くにたち」のシンボルは一橋大学になっているのではないか。長期的には「文教都市くにたち」の中心となる公共施設整備の検討が必要だと思う。議論の展開として、課題への対応以外にも、こういうものがあるとよいという議論もできるとよいと思う。(委員)
- 市民が集まることのできるクリエイティブな施設を作ることや、国立駅から働きに行く市民にとって利便性の高い拠点などを検討する必要があるのではないか。(委員)
- 東地域に住んでいる。土地の細分化を懸念している。取り壊す前の方策がないのかと考えている。「土地の顔」をどう守るのが重要である。国立は一方通行の道路が多く、車がスピードを出すために危ないところがある。子供たちに優しい通りのあり方などを検討する必要がある。抜け道になっている道路については、子供たちが安全に歩行できる環境を整備する必要がある。(委員)
- 各地域は独自性を出しながら、国立市全体として「学ぶこと」を特徴として出していけば良いと思う。(委員)
- 東地域に住んでいる。中央線高架下を地域団体に使わせてもらえないかと JR に依頼している。防災用具や祭り道具の保管場所がない。市にも支援してほしい。3・4・10号線を通すにあたり、交通量の増加が見込まれるので、登下校の見守りなどは強化していく必要がある。

旭通りと富士見通りの歩道が狭すぎるというアンケート意見があった。歩道が拡張できれば電線地中化も可能となる。

国立駅周辺にチェーン店が増えてきているが、魅力ある個人店が散らばっていて、まち歩きで回ることが国立のブランド価値となっている。

国立駅前に市役所機能がないこと、市立病院がないことなどは、市民からよく意見として聞くところであり、必要だと思われる。(委員)

- 中地域に住んでいる。富士見通りの歩道の拡幅は30年前からずっと言われているが、そのままである。個人商店が減っている。nonowa 国立など、まちの活性化と共存できるまちづくりが増えると良いと思っている。土地の細分化と時間貸し駐車場が増えている。まちの様相としては景気が悪いように思う。まちのブランド力から見ると土地の細分化が進むのは望ましくない。記載されている今後の方向性は賛成だが、個人の土地もあるのでなかなか難しい部分もあると思う。(委員)
- 旭通り・大学通り・富士見通りは店舗があるが、国立は商売しづらいという指摘もある。行政として支援できることがあるのかは分からない。違法駐車・駐輪は、市民自身の努力に加えて、市の努力もさらに必要だと思う。防災備品はベンチ下などに入れることもできる。柔軟に考える必要がある。(委員)
- 電信柱と街路灯が多いのが印象的である。電信柱がなければ景観は変わる。大きな屋敷の中に高齢者が1人だけ住んでいる人が多い。夜回り隊という取組がある。閉じこもっている人たちが外に出て活動していれば、若い人たちの関心をひくように思う。一橋大学の放置自転車も整理が必要である。究極はお互いに思いやりがあれば、地域力が上がるのではないかと思う。旭通りには歩道のタイルにたくさん絵が描かれている。歩いていて楽しいと思う。(委員)
- 中地域で勤めている。大学通りの自転車道も一方通行ではなく交互通行で走れるように自転車道の幅を広げることなども必要かもしれない。国立は多摩部の中でも市域が狭い。土地利用はメイクマネーができるものでなければならない部分もある。文教地区という名があるにもかかわらず、子どもの通学は危険な部分がある。病院がないというのも、他の委員のいうとおり課題と思う。ホテルや音大のコンサートなどができるような文化施設や南地域の産直施設などを高架下や国立駅前にできれば面白いと思う。(委員)

(富士見台地域)

- さくら通りは道路改良工事により歩行環境が良くなった。国立市全体は第一種低層住居専用地域が多くあり、高層ビルのないまちであり、生産緑地地区もあるまちである。谷保駅について、都内の中であれほど閑散とした駅はないと思う。むしろほっとする環境で、私自身はこのような環境が好きである。買い物

や病院が必要であれば立川市や府中市に行けば良いと思っている。周りに大きな市があるので、立川市・国分寺市・府中市をうまく利用し、国立市は独自路線を歩めば良いと思う。(委員)

- 他の団地もみどりが多く素晴らしいが、とりわけ富士見台第三団地は隣棟間隔がすばらしい。鉄道に沿って角度がついていて、庭園のような様相がある。空き家は学生・若者など外部に開放することが重要である。老若男女が一緒に住んで支え合うようにしていくとよいと思う。大学通りはシャンゼリゼ通りである。ブランド力のある商店が谷保までつながるようにしてほしい。大学通りの途中にあるマンションも1階部分を商店にすると、富士見台地域の活性化と市全体の魅力向上につながる。国立駅前にあるマンションも屹立していて景観が気になっている。

景観の面については、市役所に指導力を発揮してほしい。(委員)

#### (南部地域)

- 南部地域に住んでいる。住んでいるところの近くでは、区画整理があった。整理されたところには生産緑地もあるが、将来は宅地化されそうで懸念している。ヤクルト研究所は巨大な開発を進めている。新しく国際会議場も併設されるようであるが、空いているときにホールなどとして使えるように交渉することはできないか。

南部地域は南武線と甲州街道(都道256号線)によって、北側と分断されているが、これは魅力につなげていけばよいと考えている。

ただし、南部の企業誘致はほとんどが物流センターである。また自然の目の前に工場が立地するなどの状況もある。市の成長という面を考えれば、この地域は企業誘致が必要だが、伝統文化や自然環境も残る地域であり、二律背反である。いろいろなものを抱えているのが南部地域である。

物流センターを持ってきても職が増えたりするわけではない。研究開発型の企業や教育産業などが来てくれれば良いが現実には難しさがある。(委員)

- 南部地域に住んでいる。全体的には、公園や小学校などには防災対応の設備を整える必要がある。万が一のときにどれだけ生き延びられるかが重要である。南部地域は物流施設のニーズが多いが、実際に立地している物流施設の周りには農地がある状況である。またトラクターを5時くらいから動かすことや堆肥のにおいなどは、理解しない住民もあり、苦情が出ている。こういった問題への対応として、理想的には、農地を集約する必要がある。生産緑地として農地をまとめることが望ましい。(委員)

(全体)

- 観光の観点からは、宿泊施設をできないかという案があった。富士見台の団地の空き家などは AirB&B などを使用して、個人がネットを介して貸し借りすることは可能ではないか。国立らしい宿泊施設として、起きたら畑が見えとか、狭い団地に住んでいることを外国人に楽しんでもらうなど、魅力になるのではないかと思う。

現在、市では寄附でベンチを作っているが、かまどベンチや防災ベンチを選択肢に加えてほしいと思う。

南部地域は田園風景があることが魅力である。宅地と田園風景の両立が重要である。

北地域は、国立駅高架下サービスコーナーでの窓口の一本化など、国立市と国分寺市の広域連携など検討が進んでいると思うが、さらに他市との広域連携は施設のシェアなどを含めて進めていく必要がある。

国勢調査からみると、平成 12 年は単身世帯が少なかった。平成 17 年、平成 22 年は単身世帯が増えている。このあたりの対策について、土地利用で解決すべき部分があるのではないか。公共施設の問題も踏まえれば、機能合築などで対応ができればよいと思う。(委員)

- 大学通りの西側に国立市の駐輪場が広くある。西側は商工会が所有している駐車場である。これらを一体的に開発する必要がある。

個人商店の元気がないと、街路灯や消防団などの維持管理もおぼつかず、地域の活性化が図れない。(委員)

- 今回の審議会は、議論が各論となり、議論しにくいように感じる。今後の方向性に対して、みんなで議論できるポイントは何かという整理が望ましいと思う。

(委員)

- 事務局でまとめて、各地域の各論でしかないもの、昇華させて全体に持って行けるものを工夫して、次回の最初の時間で全体の議論をしたい。(委員長)

- レンタサイクル・シェアサイクルなどは、JR が始めるようだが、市内全体で実施できるような用地確保ができると良いと思う。(委員)

(3) その他

- 次回は 8 月 28 日(金) 19 時～くにたち福祉会館大ホールで開催する。土地利用についても最初に議論する。次回、起草委員を決めたいと思う。(事務局)

以上